

技術・家庭科シラバス（第1学年）

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

体験的な授業、繰り返し学習を重視するなど、個に応じた指導を発達段階に応じた徹底して習得させ、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

小グループでの話し合いを通して言語活動の充実を図る。
図や計画表などを使い、表現活動も充実するような課題を設定する。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

新授業六束を徹底させ、チャイム前着席や提出物、学習規律の確立を図る。
生徒の工夫し創造する力を高められるよう個が活かせる授業の設定や掲示の充実を図る。

評価の観点と評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、生活と技術とのかわりについて理解しているとともに、適切に作品作りを行うことができる。	生活について問題を見出し、課題を見つけ、その解決を構想し、実践を改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生活や技術について課題解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり改善したりして、生活を充実向上するために、工夫し創造し、実践しようとしている。
評価資料	・テスト ・ワークシート ・レポート ・ワーク ・作品 ・実習の様子	・テスト ・ワークシート ・レポート ・ワーク ・授業や実習の様子	・テスト ・ワークシート ・レポート ・ワーク ・授業や実習の様子
評価の方法	・定期テストの結果を評価する。 ・ワークシート、ワーク、レポートの記載内容を評価する。 ・製作品の出来を評価する。 ・実習中の実技の能力を評価する。	・定期テストの結果を評価する。 ・ワークシート、ワーク、レポートの記載内容を評価する。 ・授業中の言動を評価する。	・定期テストの結果を評価する。 ・ワークシート、ワーク、レポートの記載内容を評価する。 ・授業中の言動を評価する。

評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A^{マル}O=5点、A=4点、B=3点、C^{マル}O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
A ^{マル} O A ^{マル} O A ^{マル} O	15点	A ^{マル} O A ^{マル} O A	14点			5
A ^{マル} O A A	13点	A A A	12点	A ^{マル} O B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B C ^{マル} O	8点	3
B C ^{マル} O C ^{マル} O	7点	C ^{マル} O C ^{マル} O C ^{マル} O	6点	C ^{マル} O C ^{マル} O C	5点	2
C ^{マル} O C C	4点	C C C	3点			1

学習内容と指導のめあて（1年）

	月	学習内容	指導のめあて
家 庭 分 野	10	家庭分野ガイダンス	・技術・家庭科の教科としての特徴を知る。
	11		・小学校の学習を振り返り3年間を見通した課題を立てる。
	12	【家族・家庭生活】	
	1	【衣食住の生活・衣生活】	・自分の成長と家族や周囲の人びとのかかわりを理解する。
	2	・衣服の手入れと補修	・衣服と社会生活とのかかわり、目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫ができる。
	3	宿題：洗濯・家の手伝い ・生活に役立つ物の製作 ブックカバーの製作	・日常着の手入れができる。 ・「洗濯」を休み中の課題として取り組みをする ・身に付けた技能を活用し、安全で効率よく布を用いた物の製作ができる。
		【衣食住の生活・住生活】	・これからの自分と家族をよりよくする方法を考える。 ・家族の成長や住まい方を知る。 ・掃除を課題として快適な住空間の整える取り組みをする。

	月	学習内容	指導のめあて
技術分野	4	【エネルギー変換に関する技術】	・エネルギー変換と利用について知る。
	5 6	・エネルギー変換と利用 ライトの製作 ・回路の学習 ・電子部品の検査と製作 ・電気機器の保守点検	・電子部品を利用して、生活に役立つ回路を考え、作品の設計をする。 ・電子部品の回路を製作し生活に役立つ作品を製作できる。 ・電気工具を適切に使い、組み立てができる。 ・電気機器の保守点検の技能を身に付ける。
	7 8 9 10	【情報に関する技術】 ・情報と生活 ・コンピュータと情報処理 【情報に関する技術】 ・ソフトウェアを活用して作品作成	・コンピュータと生活や社会とのかかわりについて知る。 ・コンピュータの仕組み、構成などを理解する。 ・ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツの特徴を知る。 ・作品の構想を立て、適切な情報を集めて、作品を製作することができる。

1年生は前期に技術、後期に家庭科を行います。技術の通年の評価を2学期に記載し、家庭科の通年の評価を3学期に記載します。1学期の評価の記載はありません。